



ARIMASS Letter

[Association for Risk Management System Studies]

危機管理システム研究学会 2010年9月 第42号

HP <http://www5b.biglobe.ne.jp/~arimass/>

巨大損失の可能性

常任理事 HDI-Gerling Industrie 保険会社 板倉 貴治

昨年秋頃から、メディアの報道対象となっていた米国を中心とするトヨタのリコール隠し問題は、300億ドルにのぼるであろう賠償を求めた集団訴訟が今年の3月に提起されたことで一応の終結をみたのか、一時期のメディアの狂乱的な報道も鎮静化したようだ。

ところが、4月20日夜、メキシコ湾で石油掘削施設「ディープウォーター・ホライズン」が爆発炎上し、作業員11名が行方不明（生存は絶望視）、17名の負傷者を出す事故が発生した。この爆発の影響で、海底1500m余りのところにある掘削パイプが折れ、そこから原油が噴出し続ける事態となった。以降、アメリカ国内では、連日のようにメディアによる報道が繰り返され、7月15日に75トンの重量を持つ流出停止装置が機能するまでの85日以上にわたり78万キロリットル余りの原油が流出した。1989年にアラスカで発生したエクソン・バルディーズ号の4万キロリットルを上回る史上最悪の原油流出事故であることは間違いない。

事故原因の特定はされていないが、報道されている範囲内では、コストカットによる安全性を無視した操業実態が強く浮かびあがっている。石油掘削施設の所有者ならびに掘削作業の主体は、トランスオーション社であるが、英国のBPとの契約に基づいて採掘が行われていたということだ。石油資源開発にかかわる資金面での仕組みが、この事件で明らかになってきた。BPは、オペレーター権益を65%持っており、アナダルコ（米国）と日本の三井石油の米国孫会社がノンオペレーター権益でそれぞれ25%と10%を持っているという権益の構造になっていたことだ。オペレーター権益とは、操業にあれやこれやと口出しできる「実施・管理」する権限を持つ権益であり、ノンオペレーター権益とは、金だけですが口は出せない、収益について分け前にあずかるだけの権益と言われている。事実、7月22日の米国上院での公聴会では、米国孫会社の日本人社長は「契約上なんの権限もない。」との主張をしている。この米国孫会社は、実は三井物産のひ孫会社であるが、物産は、BPから日本円にして410億円の請求を受け、そして138件の賠償訴訟を受けているとのことである。ノンオペレーター権益とは、出資者として応分の分け前を求める権利に過ぎないが、今回のBPの請求は、

目 次		
巻頭言「巨大損失の可能性」	1 学会員の学位・論文・新刊書のご紹介	6
研究年報論文募集について	2 機関紙「アリマス・レター」の媒体変更	7
分科会報告	2 編集後記・事務局からのお知らせ	8

出資者に損失を負担することを求めてきており、出資者本人ではなく、曾爺さまにあたる物産に請求をしてきている点が着目される。この請求の妥当性については、法の判断を仰ぐことになると思われる。この事故で世界の石油大手10社の時価は28兆円減少したともいわれており、ひとつの事故が引き起こした損失としては、天文学的な規模になる。トヨタ、三井物産は日本を代表する企業であるが、グローバル市場では、こうした巨額の損失の機会にさらされていることを思い知らされる事象である。

ARIMASS 研究年報論文募集について

論文審査委員会委員長 鈴木敏正（日本総研）

2011年のARIMASS研究年報論文を募集します。

これまでも増して充実した研究論文、報告文の応募をお待ちしております。投稿を希望される方は、当学会ARIMASS研究年報に掲載されている“論文投稿の手引き”に従って論文を作成され、お送り下さい。

- 【送付先】 危機管理システム研究会 事務局 宛
- 【締切】 2010年11月末日
- 【採否通知】 論文審査委員会査読委員による査読結果は2011年1月末日までにお知らせ致します。
- 【論文集発行】 2011年6月を予定しております。

分科会報告

【RMS（リスクマネジメントシステム）研究分科会】

主査：指田 朝久（東京海上日動リスクコンサルティング）

2010年度のRMS分科会の活動が始まりました。今年度はIS031000研究WG、ERM研究WG、事例研究WGの3つのWGの活動を行います。

事例研究WG（主査銀泉株式会社内田知男氏）ですが今年度第1回の研究会を8月31日火曜日に法律事務所フロンティア・ローで開催しました。内部統制評価にみる「重要な欠陥」の判断実務についてテーマ：財務報告リスクの軽減という制度目的は達成できたのかと題しまして仰星監査法人東京事務所長・公認会計士南 成人氏を講師に開催いたしました。南氏は日本会計士協会監査基準委員会副委員長（内部統制監査基準起草委員長）でもあり、実際の事例を分析し金融商品取引法がどこまで効果をあげたのか、今後の課題はなにかなどについて議論を重ねました。

IS031000研究WG（主査MS&AD基礎研究所後藤和廣氏）は第1回の研究会を9月27日月曜日にMS&AD基礎研究所で開催します。2009年11月、リスクマネジメントの国際規格ISO 31000:2009「リスクマネジメント—原則及び指針」が発行されました。この規格は、日本では翻訳規格「JISQ 31000」として2010年9月に発行されます。イギリスでは、ISO 31000を使用しエンタープライズ・リスクマネジメントを実践するための規格が2010年2月に発行され、ヨーロッパの全域に普及しようとしています。また、アメリカでも企業のリスク・マネジャーの関心を集めています。一方、規格のユーザーである企業等も、財務報告を中心とした内部統制の整備が一段落した現在、法令遵守、業務遂行等の内部統制、さらには、企業等が直面する全リスクを対象とするエンタープライズ・リスクマネジメントの実践に、関心を高めています。IS031000はこうした企業の関心に適した規格です。このWGでは、IS031000を各箇条ごとに検討する予定です。

【リスク事例サロン分科会】

主査代行 小島 修矢(クエスト コンサルティング ロンドン)

分科会事務局 有賀 平(MS&AD 基礎研究所)

「リスク事例サロン分科会」はマスコミ等で取り上げられた事件や危機事例を題材に、会員間で自由に危機管理・リスクマネジメントの観点から情報交換や意見交流を行うことを目的としています。

本分科会は開催の都度参加者を募り、サロンと言う名前のおり飲食しながらテーマに関連して自由に意見交換を行う会費制の分科会です。今回は、第48回分科会の報告をいたします。

<第48回(2010年7月14日(水)午後6:30~8:30、於 東洋経済新報社 9階会議室)>

1. 参加者(13名): 龍崎、斉藤(淳)、大野、榎本、副枝、河原、板倉、正岡、佐藤(富)、早矢仕、佐藤(利)、小島、有賀 ※敬称略

2. テーマ:自由討論-ポスターセッションを踏まえて

3. 報告者: 小島 修矢 氏 (クエスト コンサルティング ロンドン)

4. 報告内容骨子

危機管理システム研究学会は2010年6月5日桜美林大学で行われた年次大会「再生へのリスクマネジメント」で設立10周年を迎えた。そのポスターセッションに於いて当分科会は2002年からの実績を記録年表として一覧掲示した。分科会でのリスク事例の報告は47回を数え、大規模地震、地球温暖化、環境汚染、感染症・新型インフルエンザ、医療事故、原子力発電、企業不祥事、サブプライムローン等々將にリスクマネジメント研究に相応しい時代の変遷を色濃く反映した重要なテーマが選択され、示唆に富んだ報告と忌憚のない討論を通じて有意義な分科会として続いている。

第48回は通例の形式から外れ報告者・テーマを設定せず、当分科会出席者による自由討論会として開催することとした。配布した上記年表を参考に、当分科会の果たしてきた役割、効用、意義などを浮き彫りにすると共に、今後の分科会の在り方、進め方を模索すべく意見交換した、また別途、深刻な環境汚染事故であるメキシコ湾石油流出事故の損害保険の状況について報告を行った、

5. 自由意見・情報交流内容(要旨)

- 2000年以降のリスクマネジメントに関わる事件事故の歴史と分科会のテーマと見比べると、タイムリーな話題について意見交換をしてくれている。
- 権威のある学者からリスクマネジメントを学び始めた人まで、幅広く参加し、様々な意見が交換され、それを聞いているだけでも勉強になる。
- 研究者だけでなく、現場でリスクマネジメントを実践している人が参加しているのだから、日頃のリスクマネジメントの実践のためのアイデアを持ちかえられるような分科会になってほしい。
- 学会に入会したての人が気軽に参加でき、学会に加入したことのメリットを実感できるような分科会であってほしい
- 現場で実践している方々の意見を聴ける貴重な場なので、リスクマネジメントを実践している人々に広く知ってもらい参加してもらえるような活動も必要ではないか。
- 50回の節目を11月に迎えるので、これまでの伝統を大事に、次の発展につなげる分科会としたい。

「リスク事例サロン分科会事務局からお知らせ」

ご案内の通り、当分科会は今年 11 月 10 日（水）で 50 回の節目を迎えます。記念の会に相応しい企画を現在検討中です。詳細が決まり次第ご案内を HP 及び E メールにて配信いたしますので、ご覧の上、多くの会員の皆様のご参加をお願いいたします。

以上

【MRM（メディカルリスクマネジメント）分科会】

主査：大川 淳（東京医科歯科大学大学院）

MRM 本（仮称）に向けて編集会議を毎月行っている。

第 4 回 日時 平成 22 年 7 月 14 日（水曜日）

場 所 東京医科歯科大学

参加者 寺本、宮崎、吉川、長井、大川、村井(南光堂)

内 容 南山堂編集者との打ち合わせ

仮書名 「あなたの病院は安全か？」 B5 判、2 色刷、200 ページ

編集 危機管理システム研究学会メディカルリスクマネジメント分科会

第 5 回 日時 平成 22 年 8 月 25 日（水曜日）

場 所 東京医科歯科大学

参加者 寺本、吉川、長井、宮崎、大川、辻、中村、能崎、千葉、内田、北原（昭和大薬剤部）、村井(南光堂)

内 容 久しぶりに多人数の出席を得て、執筆内容に関する最終確認が行われた。次回までに草稿作成の予定となる。

【企業活性化研究分科会】

主査：山本 洋信（アップライフシステム研究所）

<第三十二回 2010 年 7 月 24 日（土）時間：13：00～15：30 於：専修大学（神田校舎）>

1. 参加者：井端、魚谷、大野、木村、齋藤、菅原、杉本、高市、長井、星野、松本、宮川、山本、横山、依田、渡邊

2. テーマ：企業活性化に関する研究

3. 発表内容 テーマ①：『“Turnaround Strategies” by Charles W. Hofer』についての議論および総括

4. 発表内容 テーマ②：『粉飾企業の分析』 報告者：大野喜一 配布資料：10 枚

報告内容の要旨：本報告は、フタバ産業株式会社（以下、同社という。）の粉飾について分析したものである。同社は、平成 16 年 3 月期から平成 21 年 3 月期までに不適切な会計処理が行われていたことを公表した。その特徴は、訂正報告書を見ると数次にわたる財務数値の訂正がなされていることである。訂正報告書の主な内容は、減価償却による粉飾など固定資産に関する不適切処理が挙げられる。この点を踏まえ、分析により粉飾を発見することができるか否かについて検討している。本分析では、フリーキャッシュフロー（＝営業 CF＋投資 CF＋配当支出）を用いた手法から不適切な財務数値を求めている。その手法によれば、営業キャッシュフローの利益要素は水増しされていたとしても運転資本要素においてその分だけマイナスとなる。両者を合算した結果、粉飾が中和されることとなり、数値の疑念が生じ、粉飾の発見のツールとして利用できるとされている。分析の結果、同社の平成 16 年 3 月期から平成 21 年 3 月期の五年間の累計額として、1,034 億円のマイ

ナスとなり、ここから不適切な会計処理を推察する可能性を示唆している。数次にわたる訂正を行った今回のようなケースの分析は、本分科会においては新しいものである。また、複数公表された財務数値をどのように扱うかについても含め、その分析方法の確認と分析データの統合の確認を行い、再度報告することとなった。(文責：齋藤幸雄)

<第三十三回 2010年8月21日(土) 時間：13：30～16：00 於：専修大学(神田校舎)>

1. 参加者：井端、大野、木村、齋藤、菅原、杉本、長井、星野、松本、宮川、山本、横山、依田
2. テーマ：企業活性化に関する研究
3. 発表内容 テーマ①：『“Corporate Governance and Financial Constraints on Strategic Turnarounds” by Igor Filatotchev and Steve Toms』についての英訳および検討

・報告者：横山哲也(一橋大学大学院)

4. 発表内容

テーマ②：『粉飾企業の分析』 報告者：杉本敦彦(日本端子株式会社) 配布資料：4枚

報告内容の要旨：本報告は、株式会社ユニコ・コーポレーション(以下、同社という。)の粉飾について分析したものである。同社は金銭貸借契約において、本来、貸付金として会計処理されるべき取引を割賦販売取引として売上計上する等の不正な会計処理を行ったとして監査人からの指摘を受けた。過年度の訂正報告から、平成16年度の決算において債務超過に陥っていることが明らかとなった。同社の粉飾の手法は、複雑な会計処理を用いておこなわれているため、財務分析が困難である。そこで、推定値を用いる等の様々な分析手法を試みる必要があることから、分析手法の検討が行われた。

5. その他：今後の研究会予定 9月25日(土曜日) 10月9日(土曜日) 11月20日(土曜日)

(文責：杉本敦彦)

【価値ベース・リスクマネジメント研究分科会】

主査：藤江俊彦(千葉商科大学)

<第13回>

1. 日時・場所：2010年7月23日(金) 時間：18：30～20：30 於：千葉商科大学
2. 参加者：8名
3. 報告：鈴木英夫(aiリスクコンサルティング代表・リスク&チャンスマネジメント コンサルタント)

テーマ「 新型インフルエンザの対応に見る国民性と組織の危機管理 — 安心志向社会における危機管理広報への提言 」

4. 内容：新型インフル問題は2009年の社会と企業組織での大事件だったが、日本のメディアはアメリカで死者がでると大騒ぎし、国内で初の感染者がでると騒いだが、なぜか初の死者がでて騒がなかった。5月はマスクだらけから6月の安心宣言がでると急にしなくなった。マスクは安心の代名詞なのか。政府の空港での検疫検査、隔離、企業の出張規制、イベント中止、学校閉鎖など行き過ぎではなかったか。根底に、科学的「安全」より情緒的で曖昧な「安心」の基準が優先する国民意識があるのでは。報道分析、企業の広報対応など変化する世の中の安心志向状況を読み取る必要があり、出口戦略は難しい。

学会員の学位・論文・新刊書のご紹介

著書名：「リスク重視の企業評価法」(税務経理協会)

会員名：井端 和男(イバタ カズオ)(井端公認会計士事務所)・・・企業活性化研究分科会所属

内容：本年1月19日、航空業界で日本を代表する日本航空が倒産・会社更生法の申立てを行なったことは旧知であり、まさかの意識をもたれた方も多いたところである。

「大企業・優良企業の倒産はありえないだろうし、なかろう」の神話は崩れかかっている観もある昨今といえよう。本書は磐石と信じられている大企業や躍進を続けている優良企業といわれている企業においても「突然、存亡の危機に立たされるリスクが実際にある」ことを、対象企業の財務諸表の数値を用いながら教えていて、専門家には無論であるが、初級者やこれから企業リスクについて学び研究されようとしている方にも理解できるようになっている。

著者略歴：一橋大学経済学部卒業。日綿実業(現双日)入社。条鋼鋼管部長・国内審査部長、子会社高愛株式会社常務取締役などを歴任。1991年より公認会計事務所を開設。現在に至る。

主な著書：倒産予知のための財務分析、与信限度の設定と信用調査の見方、いまさら人に聞けない「与信管理」、粉飾決算を見抜くコツ、最近の粉飾、黒字倒産と循環取引、最近の逆粉飾など多数。

出版社	税務経理協会	単行本	238ページ	発売日	2010/9/1
ISBN-10		ISBN-13:	9784419055387		

著書名：「危機管理の理論と実践」

会員名：加藤 直樹(カトウ ナオキ)

(防衛大学校安全保障・危機管理教育センター准教授兼東洋学園大学現代経営学部兼任講師)

内容：現代の危機管理、リスクマネジメントの意思決定過程が縦割りかつフローチャート上での当てはめによって対処することが定石となっている中で、必ずしもそのような対処法が万能でないことを意思決定の視点から再考する。その中で従来の事象認識の在り方に対し、複雑適応系の概念を援用したホロンの視点からの危機管理における意思決定戦略を提案している。第1章から第4章までは理論的考察を中心とし、それらの実例を第5章以下で検討している。

専門家や実務担当者をはじめとして危機管理に携わる方々に参考にしていただけるだけでなく、これから「危機を認識する際にどういう視点が重要か」、という問題意識を持つすべての人々にも理解できるようになっている。太田文雄教授との共著

著者略歴：防衛庁防衛局(現、防衛省防衛政策局)などで行政官として勤務の後、教育・研究部門で幹部教育などに当たる。「法という枠組みと、経済という裏付けによって政策・戦略は規定される」というコンセプトを基に、「人間の全ての安全を保障する戦略実現の為の、危機管理という戦術」という位置づけで、意思決定・認識というアプローチを中心に学際的研究活動を行う。中央大学大学院総合政策研究科博士後期課程総合政策専攻(経営政策コース)。修士(法学)、博士(総合政策)。現在、防衛大学校安全保障・危機管理教育センター准教授、東洋学園大学現代経営学部兼任講師(経営戦略論)、中央大学政策文化総合研究所客員研究員。

出版社	芙蓉書房出版	単行本	184ページ	発売日	2010/09
ISBN-10	4829504927	ISBN-13:	978-4829504925		

機関紙「アリマス・レター」の媒体変更

広報・編集委員会

現在のアリマス・レターは四半期ごとに各学会員へ紙媒体で送付いたしておりますが、学会財務状況及びインターネットの普及状況に鑑み、このたび紙媒体であるアリマス・レターの印刷・郵送方式を廃止し、HP上への電子媒体に変更することとなりました。

今後、発刊されたタイミングで各号ともHP上の掲載箇所のアドレスを会員へメール通知し発行を知らせいたします。実施時期は、今年度第43号（12月号）からとなります。メールアドレスの無い方へ措置は別途検討いたしますが、原則郵送対応しないこととなります。何卒ご理解のほど宜しく御願い申し上げます。

【編集後記】

総武線の車窓から建設中の「東京スカイツリー」が見える。昭和の人である私には「三丁目の夕日」—東京タワー建設時の風景—の記憶と重なるのが不思議だ。それにしても人間は「塔」が好きなようだ。古くは聖書に出てくる「バベルの塔」、「西安の大雁塔」、「ピサの斜塔」、「パリのエッフェル塔」、「日本の五重塔」など枚挙にいとまがない。なぜ人は塔を建て、塔を見上げるのかと疑問を抱くのは私ばかりではあるまい。言の葉を紡ぐなら、そこには大きなものへの憧れ、未来に対する使命感、勇気を鼓舞する云々「坂の上の雲」を仰ぐような気持ちがあるように思う。我学会は、塔は塔でも、決して「象牙の塔」などではなく、実業に深く根ざした確固たる学問の塔を築いていくためにある。学会と共に10周年を迎えたアリマス・レター、私たち編集委員会は、引き続き会員相互のコミュニケーションを第一に、未来を展望しつつ新たな創意工夫を凝らして前進していきたい。皆さまの変わらぬご指導・ご鞭撻をお願いする次第である。

（広報・編集員長 小島 修矢）

<事務局からのお知らせ>

1. 分科会連絡先

教育実践分科会

主査：後藤和廣

TEL. 03-3291-8921 / Fax. 3291-8930

e-mail: gotokaz@aol.com

リスクマネジメントシステム研究分科会

主査：指田朝久

TEL. 03-5288-6584(直) / Fax. 03-5288-6590

e-mail: t.sashida@tokiorisk.co.jp

リスク事例サロン分科会

主査：島田公一

TEL. 03-5423-1070 / Fax. 03-5423-1074

e-mail: kshimada0011@yahoo.co.jp

ご連絡は、都合により暫くの間下記主査代行までお願いいたします。

主査代行：小島修矢

Tel: 047-338-6185 / Fax. 047-338-6185

e-mail: kojimash@mb.infoweb.ne.jp

メディカルリスクマネジメント分科会

主査：大川 淳

TEL. 03-5803-4513 / FAX 03-5803-4513

e-mail: okawa.merd@tmd.ac.jp

企業活性化研究分科会

主査：山本 洋信

TEL. 048-874-4491 / FAX 048-874-4491

e-mail: -

価値ベース・リスクマネジメント研究分科会

主査：藤江俊彦

TEL. 047-372-4111 / FAX 047-373-9919

e-mail: fujie@cuc.ac.jp

2. 新入会員紹介

氏名	所属
石井 邦尚	リーバマン法律事務所
松本 徹	専修大学
村本 道夫	マトリックス国際法律事務所

3. 住所・所属等変更の連絡方法

会員各位の自宅のご住所・電話番号・所属機関の名称・所在・電話番号・職名等について変更の生じた場合には変更前と変更後を並記のうえ必ず文書にて事務局宛ご連絡ください。

発行 危機管理システム研究学会

〒140-0013 東京都品川区南大井 6-3-7

スリージェ南大井ビル (株)リムライン内

TEL. 03-5753-0080 FAX. 03-5753-0086

e-mail: arimass@muh.biglobe.ne.jp

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~arimass/>

2010年9月30日発行

印刷 株式会社 文典堂 03-3762-0721